

事業報告書

平成27年度



設置者	学校法人		双葉学園		
幼稚園名	双葉幼稚園				
理事長	横山政遵		園長	横山政遵	
所在地	沼津市下香貫字柿原2843－1				
定員数	180名	認可クラス数	年少	年中	年長
			2	2	2
		学年定員数	60名	60名	60名

理事長挨拶

情報化社会を向かえ、色々な情報が氾濫しております。子供は日一日と成長し、自分を取り巻く環境に敏感に対応します。子供が健やかに育つため環境を構築し、幼児期にふさわしい生活が展開されるよう、遊びを通して知、体、心を家庭との連携で心身共に強く、正しく、朗らかに育つよう願っております。

建学の精神

釈尊の仏教の本質である釈尊の説く「慈悲心」と祖師日蓮が行とした「孝養心」を教育の柱とし人が人としてあるべき心を培う人間形成を育成する。

法人の概要

(1) 学校法人

学校法人名	学 校 法 人 双 葉 学 園
学校法人認可年月日	昭和・平成 31 年 7 月 25 日
学校法人登記年月日	昭和・平成 32 年 11 月 7 日
設置する園名	設 置 認 可 年 月 日
双葉幼稚園	昭和30年7月25日

(2) 役員の数

(単位：人)

選任区分	定数	実数	任期
校長・園長	1 人	1 人	年
評議員	3 人	2 人	4 年
学識経験者	2 人	2 人	4 年
	人	人	年
	人	人	年
	人	人	年
理事計	6 人	5 人	年
監事	2 人	2 人	4 年

(3) 評議員の数

(単位：人)

選任区分	定数	実数	任期
教職員	4 人	4 人	4 年
卒業生	5 人	5 人	4 年
父母	人	人	年
学識経験者	4 人	4 人	4 年
	人	人	年
	人	人	年
	人	人	年
評議員計	13 人	13 人	4 年

幼稚園の概要

教育方針	本年は、文部科学省幼稚園教育要領に示された5領域(健康、人間関係、環境、言葉、表現)に基づき、人生最初の集団教育の場、人格形成の場である事を念頭において、幼児の発育課題に即した指導を行う。
特徴	オペレッタなど音楽を通じた表現活動に力をいれ、そのほか英語・書道・体育に力を入れている

双葉幼稚園

学級名	3 歳児					4 歳児			5 歳児			合 計	担任氏名
	満3歳より		男	女	小計	男	女	小計	男	女	小計		
	男	女											
れんげ	2	1	6	6	15							15	片山ゆきみ
きく						12	10	22				22	藤井由李奈
うめ									20	10	30	30	北村 愛里
合計	2	1	6	6	15	12	10	22	20	10	30	67	
	男	女	男	女	学年計	男	女	学年計	男	女	学年計	園児数合計	

[illegible]

平成27年度年間行事予定

4月				5月				6月				7月				8月				9月									
日	曜日	行 事	預	庭	日	曜日	行 事	預	庭	日	曜日	行 事	預	庭	日	曜日	行 事	預	庭	日	曜日	行 事	預	庭					
1	水	新学期準備		○	1	金	引渡訓練			1	月	内科検診	○	○	1	水		○	○	1	土	土曜日			1	火	願書配布	○	○
2	木	新学期準備		○	2	土	土曜日			2	火	歯科検診	○	○	2	木		○	○	2	日	日曜日			2	水		○	○
3	金	新学期準備		○	3	日	憲法記念日			3	水		○	○	3	金		○	○	3	月	夏期自由保育	○	○	3	木		○	○
4	土	土曜日			4	月	みどりの日			4	木	眼科検診	○	○	4	土	土曜日			4	火	夏期自由保育	○	○	4	金		○	○
5	日	日曜日			5	火	こどもの日			5	金		○	○	5	日	日曜日			5	水	夏期自由保育	○	○	5	土	土曜日		
6	月				6	水	振替休日			6	土	土曜日			6	月		○	○	6	木	夏期自由保育	○	○	6	日	日曜日		
7	火	始業式			7	木	満3歳児受入・年少預かり保育開始	○	○	7	日	日曜日			7	火	七夕	○	○	7	金	夏期自由保育	○	○	7	月		○	○
8	水	入園式			8	金	参観日	○	○	8	月		○	○	8	水		○	○	8	土	土曜日			8	火		○	○
9	木	少11時・中長14時30分	○	○	9	土	土曜日			9	火		○	○	9	木		○	○	9	日	日曜日			9	水		○	○
10	金	少11時・中長14時30分	○	○	10	日	日曜日			10	水		○	○	10	金	体験保育	○	○	10	月	園閉鎖日			10	木		○	○
11	土	土曜日			11	月		○	○	11	木		○	○	11	土	土曜日			11	火	園閉鎖日			11	金		○	○
12	日	日曜日			12	火		○	○	12	金		○	○	12	日	日曜日			12	水	園閉鎖日			12	土	敬老の日の集い		
13	月	少12時・中長14時30分	○	○	13	水		○	○	13	土	親子の集い			13	月		○	○	13	木	園閉鎖日			13	日	日曜日		
14	火	少12時・中長14時30分	○	○	14	木		○	○	14	日	日曜日			14	火		○	○	14	金	園閉鎖日			14	月	敬老の日の集い代休		
15	水	少12時・中長14時30分	○	○	15	金	体験保育	○	○	15	月	親子の集い代休			15	水		○	○	15	土	土曜日			15	火		○	○
16	木	少13時・中長14時30分	○	○	16	土	土曜日			16	火		○	○	16	木		○	○	16	日	日曜日			16	水		○	○
17	金	少13時・中長14時30分	○	○	17	日	日曜日			17	水		○	○	17	金	1学期終業式			17	月	夏期自由保育	○	○	17	木	体験保育	○	○
18	土	土曜日			18	月		○	○	18	木		○	○	18	土	お泊り保育			18	火	夏期自由保育	○	○	18	金		○	○
19	日	日曜日			19	火		○	○	19	金		○	○	19	日	お泊り保育			19	水	夏期自由保育	○	○	19	土	土曜日		
20	月	全学年平常保育	○	○	20	水		○	○	20	土	土曜日			20	月	海の日			20	木	夏期自由保育	○	○	20	日	日曜日		
21	火		○	○	21	木		○	○	21	日	日曜日			21	火	お泊り保育代休			21	金	夏期自由保育	○	○	21	月	敬老の日		
22	水		○	○	22	金	春の遠足 日本平動物園			22	月		○	○	22	水	夏期自由保育	○	○	22	土	土曜日			22	火	国民の休日		
23	木		○	○	23	土	土曜日			23	火		○	○	23	木	夏期自由保育	○	○	23	日	日曜日			23	水	秋分の日		
24	金		○	○	24	日	日曜日			24	水		○	○	24	金	夏期自由保育	○	○	24	月	夏期保育	○	○	24	木		○	○
25	土	土曜日			25	月		○	○	25	木		○	○	25	土	土曜日			25	火	夏期保育	○	○	25	金		○	○
26	日	日曜日			26	火		○	○	26	金		○	○	26	日	日曜日			26	水	夏期保育	○	○	26	土	土曜日		
27	月		○	○	27	水	交通安全教室	○	○	27	土	入園説明会			27	月	夏期自由保育	○	○	27	木	2学期始業式	○	○	27	日	日曜日		
28	火		○	○	28	木		○	○	28	日	日曜日			28	火	夏期自由保育	○	○	28	金		○	○	28	月		○	○
29	水	昭和の日	○	○	29	金		○	○	29	月	プール開き	○	○	29	水	夏期自由保育	○	○	29	土	土曜日			29	火		○	○
30	木		○	○	30	土	土曜日			30	火		○	○	30	木	夏期自由保育	○	○	30	日	日曜日			30	水		○	○
					31	日	日曜日								31	金	夏期自由保育	○	○	31	月	体験保育・入園説明会	○	○					

平成27年度 学校法人双葉学園双葉幼稚園 情報公開

1財務状況

【資金収支計算書】

科目	決 算 額
収入の部	
学生生徒等納付金収入	18,624,400
寄 付 金 収 入	
補 助 金 収 入	20,270,000
資 産 運 用 収 入	277,526
資 産 売 却 収 入	
事 業 収 入	6,059,180
雑 収 入	1,049,577
借 入 金 等 収 入	6,747,320
前 受 金 収 入	510,000
そ の 他 の 収 入	4,367,640
内 部 資 金 収 入	
資金収入調整勘定	△ 2,563,375
前年度繰越支払資金	2,802,135
収入の部合計	58,144,403
支出の部	
人 件 費 支 出	28,356,161
経 費 支 出	17,943,007
借入金等利息支出	400,280
入金等返済支出	3,360,000
設備関係支出	133,920
資 産 運 用 支 出	
そ の 他 の 支 出	1,900,000
内 部 資 金 支 出	
資金支出調整勘定	△ 946,135
次年度繰越支払資金	6,997,170
支出の部合計	58,144,403

【財産目録】

科目	金額
基 本 財 産 計	373,491,564
運 用 財 産 計	9,412,495
資 産 の 部 合 計	382,904,059
固 定 負 債 計	18,500,000
流 動 負 債 計	9,052,255
負 債 の 部 合 計	27,552,255
差 引 純 資 産	355,351,804

【消費収支計算書】

科目	決 算 額
収入の部	
学 生 生 徒 等 納 付 金	18,624,400
寄 付 金	
補 助 金	20,270,000
資 産 運 用 収 入	277,526
事 業 収 入	60,598,180
雑 収 入	1,049,577
帰 属 収 入 合 計	46,280,683
基本金組入額合計	△ 1,651,720
消費収入の部合計	44,628,963
支出の部	
人 件 費	28,356,161
経 費	24,570,266
借入金等利息	400,280
資 産 処 分 差 額	
本 部 負 担 金	
消費支出の部合計	53,326,707
当年度消費支出超過額	8,697,744
前年度繰越消費支出超過額	203,934,207
翌年度繰越消費支出超過額	212,631,951

【貸借対照表】

科目	本年度末
資産の部	
固 定 資 産	373,491,564
流 動 資 産	9,412,495
資 産 の 部 合 計	382,904,059
負債の部	
固 定 負 債	18,500,000
流 動 負 債	9,052,255
負 債 の 部 合 計	27,552,255
基本金の部	
第 1 号 基 本 金	557,556,554
第 4 号 基 本 金	10,427,201
基 本 金 の 部 合 計	567,983,755
消費収支差額の部	
翌年度繰越消費支出超過額	212,631,951
消費収支差額の部合計	
学内貸借の部	
負債の部、基本金の部、及び消費収支差額	382,904,059

春の遠足(日本平動物園) 平成27年5月22日

収入総金額	340,200 円
支出総合計	340,412 円
差 引	-212 円本会計より

収入の部

	金 額	備 考
遠足代金	340,200	園児63名 × 2,400円・親63名 × 3,000円
合 計	340,200	

支出の部

	金 額	備 考
遠足経費	324,980	東海トラベル旅行センター 324,980円 バス代・保険料、入場料等
謝 礼	15,000	バス運転手3名 × 3, 000円・バスガイド3名 × 2, 000円
振込手数料	432	沼津信用金庫
合 計	340,412	

平成27年6月10日

双 葉 幼 稚 園
園長 横山 政遵 ㊞

雪見遠足(ぐりんぱ)

平成28年2月5日

収入総金額	302,100 円
支出総金額	298,152 円
差 引	3,948 円本会計へ

収入の部

	金 額	備 考
遠足代金	302,100	園児57名 × 2,550円 ・親57名 × 2,750円
合 計	302,100	

支出の部

	金 額	備 考
遠足経費	288,720	富士急シティバス株式会社 バス代・駐車場6台・入場料等
謝 礼	9,000	バス運転手3名 × 3, 000円
振込手数料	432	沼津信用金庫
合 計	298,152	

平成28年2月22日

双 葉 幼 稚 園
園長 横山 政遵 ㊞

平成27年度 自己評価 学校関係者評価書

平成28年3月31日

学校法人双葉学園 双葉幼稚園

1. 幼稚園の教育目標

建学の精神に基づき慈悲心、孝養心を柱としつよく、ただしく、うつくしく、進んで挨拶のできる子、思いやりの心をもてる子の人間形成の育成。

2. 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

園児一人一人の個性を重視し発達と成長を感じながら園児が進んで挨拶ができ、思いやりの心を持ち、最後まで頑張ることができるよう教職員力を合わせ保育に取り組む。

3. 自己評価結果と学校関係者評価

評価対象	自己評価	学校評価	意見
1. 保育の計画性	A	A	若い教員も中堅に入り各学年に即した保育計画を立てるとともに個性的な保育計画がなされている。
2. 保育のあり方 幼児への対応	A	A	園児に対し目を配り安心である。教員職員一丸となって園児に一人一人に対応している。
3. 教師としての 資質、能力、適性	A	A	ベテラン教員2名と若手教員3名が連携をとり、十分に信頼関係を持ち、保育法、保護者への接していると思う。
4. 保護者への対応	A	A	小さな問題や相談にも時間のない中、親切丁寧に報告がなされている。保護者の意見に真摯に向き合っている。

評価対象	自己評価	学校評価	意見
5.地域の自然や社会 とのかかわり	A	A	園児の自然へのかかわりを重視し園外保育を増やし自然に接する機会が増えてきた。
6. 研修と研究	B	A	研修、研究についての自己評価は謙遜であろう。我々としては意見をいうことはない。

※A（十分成果があった） B（成果があった） C（少し成果があった）
D（成果がなかった）

4. 学校評価委員の総評

若手の教員も4年・3年目となり保育に真剣に取り組んでいると思われる。又、ベテラン教員2名の指導をいただきより高い保育をしようとする姿が見られる。園児が減少する中でその与えられた環境に沿った保育や行事に教職間の連携を強化し、創意工夫して園児が楽しく過ごせる保育や幼稚園づくりをお願いしたい。

5. 今後取り組むべき課題

年々の園児減少にともない教職員の数や保護者の数が少なくなる中で園行事の在り方や、園独自の活動も見直し、園児たちの負担を軽減し毎日を楽しみ過ごし活気のある保育方法に取り組む。